

令和4年度 岡山県立津山中学校 学校評価書

校長 赤 松 一 樹 印

1 自己評価

I 評価結果（別紙）

II 分析・改善方策

1 「豊かな人間性を育むために」

（1）確かな基盤としての人間力の育成

30校を越える小学校から新入生が入学してくることから、4月当初の集団づくりは特に重要な教育活動としてと位置付けている。新入生の宿泊研修は今年度も中止となったが、4月当初に校内での集団活動を行うことで、早期に好ましい人間関係づくりを図った。年度当初の集団活動は、生徒間の好ましい人間関係づくりに寄与し、円滑な中学校生活のスタートに向けて大きな意義をもつことから、2・3年生もそれぞれの学年目標の中に組み入れて継続して指導した。

（2）失敗を恐れず積極的にチャレンジする機会の設定

W e b開催を含めたコンテストやコンクールに積極的に参加を呼びかけ、応募数や受賞者数の増加が顕著に見られた。引き続き生徒に呼びかけを行い、積極的な挑戦を促していくとともに、新たな分野の開拓も継続して行う。

（3）1ヶ月に2冊以上の読書量の確保

個々に読書量の多寡はあるが、朝読書の指導、学級文庫の充実、生徒会文化委員会の取組等により、多くの生徒が達成することができている。本校の図書室の蔵書をW e bから検索できるようにし、授業や家庭でも生徒や教員が活用することができ、課題研究などの資料収集に役立っている。課題探究活動の場面でも図書の活用の充実を図りたい。

（4）学校外での体験活動の充実

第1学年は「地域を知る」というテーマのもと、地域の方に取材して地域の魅力を再発見するとともに、10月に外部講師の講演会で地域の現状やフィールドワークへの心構えを学んだ後、11月に地域の課題を発見するために美作地域の事業所でフィールドワークを行った。第2学年は「働く」を考えるというテーマのもと、9月に外部講師の講演会で地域の現状、働く意義、仕事の魅力などを学んだ後、10月に4日間を通して、官公庁、接客業、製造業、販売業など34の事業所で職場体験を行った。第3学年は政治・経済の中枢を担う機関や最先端の研究に触れることを通して、自らの将来を展望し進路選択について考えを深めたり、多様な視点から我が国について理解を深めるとともに、国際社会に生きる日本人としての見識を深めたりすることなどを目的として、東京方面へ4日間の修学旅行を行った。全学年での登山や中高合同でのウォーキング大会を行い、心身を鍛え達成感や充実感を味わわせるとともに、生徒相互の親睦を深め、自己の体力を知る機会となった。引き続き、生徒の安全を最優先としながら体験活動を充実に努めたい。

2 「確かな学力を育むために」

(1) 基本的学習習慣の確立

毎日の生活ノートの活用や学期ごとの「生活の記録」調査などにより、個々の課題を把握し生徒への個人面談や保護者面談を通して、個別にきめ細やかな指導や支援を行った。また、「予習・復習 2 時間＋自主学习・読書 1 時間」計 3 時間の家庭学習時間の確保については、達成が十分でない学年や回があり、今後も生徒の実態を把握するとともに、継続して必要な指導や支援を行う。

(2) 生徒の自主性・主体性を育成し伸ばす指導の研究と実践

異年齢交流の重要な機会として位置付けている学校祭は、今年度も中高別日での開催となった。3 年生がリーダーシップを発揮し、1・2 年生をリードし、集団をまとめ、生徒が中心となって創意工夫する姿が見られた。合わせてクラスの取組（1 年創作劇、2 年創作ダンス、3 年英語劇）も同時に行うことで、大きな達成感や充実感を得ることができた。また、台本や資料の作成の場面で、生徒同士がChromebookを用いて共同で編集作業を行うなど、ICTを有効に活用し創造する姿が見られた。

(3) 6 年間を見通した VGR を育成するための教育の構築

VGR：VはVision「グローバルな視点を持って将来を見通す力」、Gは Grit「他者と協働しながら失敗を恐れず、困難を乗り越え最後までやり抜く力」、Rは Research Mind「様々な科学的手法を用いて、課題の解決に向け探究する力」を指す。

中学・高校の教員から構成される中高連携係がイニシアティブを取り、6 年間を見通した学習指導計画の作成や、中高連携に係る研修会を実施した。生徒課、進路課、広報室、数学科、英語科などは、中高合同で定期的に会議を開催し、連携を深めることができた。中学 3 期生が高校 3 年次生になり、高校進学後の生徒情報も充実してきたため、成績の推移等を参考に VGR の育成を評価するとともに、生徒の目的意識と主体性を高め、高校進学後も津山中学校の卒業生と他の中学校の卒業生が互いに困難な場面でも切磋琢磨して成長する生徒の育成を図る。

3 「魅力ある学校づくりを推進するために」

(1) 広報活動の充実

学校案内では生徒の活動の様子や、津山中学校卒業生の声を取り入れて内容の充実を図るとともに、近隣の小学校に 6 年生全児童分の学校案内を配付した。6 月に学校説明会、8 月にオープンスクールを実施し、本校の概要を説明して学校の様子を見ていただく機会をつくることができた。ブログの更新や報道発表を積極的に行うなど、昨年度と比べ取材や報道での掲載が増え、本校の取組や魅力を発信することができた。今年度は近隣の小学校への訪問を行い、学校の様子を伝えるとともに、各小学校から津山中学校に期待することなどの聞き取りを行った。引き続き、地域に開かれた学校を目指して取り組んでいきたい。

(2) 中高連携の更なる推進

課題研究をはじめとして「エクスプレッション」、「「イングリッシュ」ロード」等の特色ある授業と高校のSSH事業との関連付けが明確となり、一層の連携を図っていく。第3学年の高校部活動への早期入部は、異年齢の交流や中学校3年生の後半の活動を充実させることで、心身の成長を図ることに繋がっており、今後も継続していく。学校祭やウォーキング大会などの中高合同で開催する学校行事では、中高の生徒の自主性を図るとともに、互いに成長できる環境を整えていく。

4 「充実感を持って働くことができる職場作りを推進するために」

今年度は「業務内容の見直し検討」「週1回の18時退校の確実な実施」「時間外業務1日30分の削減」を掲げて働き方改革に取り組んだ。2月末時点で時間外勤務時間は一昨年度との比較で約14%の削減であり、教員が生徒と向き合う時間を確保することに繋がった。計画的な業務遂行を意識することで時間外勤務時間月80時間越えの絶無を目指すとともに、組織的な対応や必要最小限な資料作成や簡素な事務手続などを推進するなど、ゆとりを生み出し、職場生活と家庭生活の両立、心身ともに健康で生き生きと働ける活力のある職場づくりを目指し、勤務負担軽減に取り組んで参りたい。

2 学校関係者評価委員名

河合 保生（元ノートルダム清心女子大学 文学部現代社会学科教授）
大土井 亮輔（建設設計会社経営 民生児童委員・主任児童委員）
杉山 知子（美作大学名誉教授）
飯綱 浩二（津山高校保護者）
秋山 政徳（津山中学保護者）

3 学校関係者評価

今年度の経営目標達成に向けての取組等について、内容と成果・課題を説明し、次のような意見・提言・示唆・評価等をいただいた。

- 中学校の授業が印象的であり、特に“イングリッシュ”ロードとエクспRESSIONは、今後の学習を進める上での基礎となると感じた。「わかりやすい授業」については、教員も保護者も評価がよくなっており、先生方の努力が感じられる。
- 十六夜ノートの取組が良い。先生と生徒が意思疎通を行い、自分の目標を書いて意識させることは大切である。1人1台端末の活用も視野に入れてはどうか。
- 中学校の1年生から課題をもって探究し、3年生で課題研究発表を行う取組は素晴らしい。3年間通してやり抜く力を育成するという観点から、1つのテーマとすることも良いが、3年間あれば途中で別のテーマを探究させることも良い。
- 「ホームページを見ますか」の項目について、最近は多く更新されて良くなってきており、ホームページの重要性に対応している。
- 校風の文武両道について、「文武」について様々な方の講演を聞く中で教養をしっかりと身に付けており、我々の高校時代を懐かしく思い出すと同時に、このような講演を聞くのも良いと感じた。我々の時代は座学ばかりだったが、今はそうでなく先生方が生徒の学ぶ機会を設けていることに感心した。主体性・多様性・協働性をしっかりと育んでもらいたい。
- 校則の問題は世間でも注視されているが、見直しの対応等をしてはどうか。保護者としては一定の期間のみ学校に通わせているので、その期間は快適に過ごさせたいと思っていると思う。コロナ禍

で困難であったPTA活動も充実させてほしい。

- 学習時間に関しては、ほぼ目標を達成できている。特に、2年生が1年生のときより伸びており、各種コンテストの参加者数を見ても1年生の時より2年生になり随分伸びており、やる気の表れの結果だと感じた。山陽新聞コンクールへ3名が投稿し賞も取っており内容についても感心した。オールマイティーでなくても、好きなことに興味がわけばさらに伸びていくと感じた。
- 課題探究を通して将来を見通す力を育成しているのが素晴らしい。各教科の先生も高校に繋がると考えて取り組まれているのがよく分かる。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

進学生（津山中学校の卒業生）と入学生（他の中学校の卒業生）が津山高等学校進学後に互いに切磋琢磨していく関係の構築を引き続き重視し、併設型中高一貫校として教育活動の一層の充実を図るため、次の4点を重点的に取り組んでいく。

1点目は、「確かな学力」と「豊かな人間性」の育成である。基本的な学習習慣を確立させ、教科指導や学校行事等を通してVGRを育成する。1人1台端末を活用し、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。基本的な生活習慣を確立させ、「あいさつ」「気づき」「思いやり」「協働」ができる心の育成を図る。

2点目は、特色ある教育活動を充実させ、本校の魅力を発信する。失敗を恐れず積極的にチャレンジさせ主体的に活動する場や、知的好奇心を刺激し自主性を伸長する学びの充実を図る。生徒の活動を中心とした広報活動を行い、各報道機関との連携や学校説明会等の周知を図る。

3点目は、中高連携の更なる推進である。6年間を見通した教育活動の充実とVGRの伸長を意識した高いレベルで生徒同士が互いに切磋琢磨できる教育活動を推進する。中高相互の連携と協働が図られ、高校との一層の連携を強化し指導と評価を改善することで、高校への進学のスムーズな接続を図る。

4点目は、働き方改革の推進である。OJTを取り入れ、一層の教員の指導力の向上を図る。今年度も週1回の18時退校を確実に実施し、計画的な業務遂行による時間外勤務月80時間越の絶無を図り、教員が生徒と向き合う時間を確保するとともに、心身が健康な状態で生徒の指導に当たり、健康で生き生きと働ける活力のある職場づくりを目指す。